
ユーノさんが大変な力を手に入れました

jasper

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユーノさんが大変な力を手に入れました

【Nコード】

N6781L

【作者名】

j a s p e r

【あらすじ】

ユーノは自分を責め続けていた。

ある日、何の因果かユーノは力を手にする。

この力で、なのはを守りたい。

その思いでユーノは歩き始める。

※ネタです。期待しないでください

始まらないプロローグ（前書き）

作者のちゃんと連載してるほうの続きが思いつかなくてネタに走っただけです。

過度な期待はしないでください。むしろ時間を無駄にするつもりで見てください。

始まらないプロローグ

なのはが堕ちた。

容態は重体。魔導師として飛ぶことはおろか、日常生活に影響すら及ぼすかもしれないレベル。

原因は過労だった。自身の身体を省みない勤務による疲労の蓄積が動きを鈍らせ、今回の事態に陥った。

原因を探っていけば、僕の所為になるんだろう。

僕が、ジュエルシードを発掘しなければ。

僕が、助けを呼ばなければ。

僕が、もっと力を持っていれば。

なのはが魔法と出会うことも無く、こんな怪我をすることもなく、幸せに生きていけたはずだ。

すべては…僕の所為。

拭いきれない罪悪感と、自分への苛立ちを隠して、今日も僕はなのはのお見舞いに向かう。

始まりは、なのはのお見舞いに初めて言った日の次の日だったろうか。

夢を見た。

何も無い真っ暗な空間に立つ、一人の男。

ただそれだけ。ただそれだけだけど、とても印象に残った。

その男を一目見て、その覇気から、その存在から直感する。『この男は王だ』と。

朝、目覚めて無限書庫へ向かう準備をする。

——右目が痒い。

次のお見舞いは三日後だった。

無限書庫での勤務が忙しくて、あの夢を見た日から寝ていない。

なのはの様子を見てから寝に行こうと思う。

二十分ほど話をして、病室を後にする。

事故直後よりはいくらか明るくなったのは。

でも、わかる。笑ってるように見えて、泣いてること。不安で、苦しくて、怖くて、痛い。

どうにもできない自分が不甲斐なくて悔しい。

夜、夢を見た。また、あの王だ。

「力が欲しいか？」

佇んでいるだけだったはずの王が、そう言った。

その双眸は、悲しみをたたえているようで、しかし強さと希望を持った瞳だった。

が、右目の蒼に対し、左目が金。オッドアイというものだろうか？

その質問に答えられず目覚めることとなった。

——右目が、痒い。

次の日、今日は定時で上がれそうだ。

折角だからなのはに会いに行こう。

「あ、今日も来てくれたんだ。忙しいのに、ごめんね」

彼女に気を使わせてどうする。

自責の思いは、強くなる。

夜。なんとなくわかってたけど、夢を見た。

この日から夢の内容は続いた。悲しい王の記憶の再生が。

数日。眠りについて見た夢は、王の記憶じゃなかった。

赤い夜の夢。この記憶の少年は、仲間と共に運命を切り開いていく。

それからまた数日。

なのはのお見舞いに行くたびに増える自責の思い。

比例するように見る夢。

最近気付いた、王と少年の共通点。金色の右目。

——何故か右目が痛い。

なのはがりハビリを始めた。

僕に出来ることは無い。

僕がダメになっていたジュエルシード事件。彼女は僕を助けてくれたのに、僕が彼女に出来ることは無い。

強く拳を握る。歯を食いしばる。

——右目が脈を打った。

痛い、痛い、痛い。右目が抉られるような痛み。

これが僕への罰なんだろうか。そう思いながら意識を失った。

「ヴェラード、強引過ぎるだろう」

「仕方の無いことだ」

「はあ……ようこそ、劫の眼に連なる者よ」

暗い空間。目の前には、王と少年——いや、夢で僕は彼らの名前を知っている。

「ヴェラードさん、駆くん」

「そうだ。俺やヴェラードの記憶を見たならわかるだろう？ この

言葉の意味が」

「うん。…そうか、僕もなのか」

「お前が望んだ力だ」

「確かに、僕は力を望んだ」

「あんまり時間無いからさ、これを渡させてもらおうよ」

「……これは」

「美鈴先輩からの借り物だから、本当は良くないんだけどな。持つてってくれ」

駆くんが差し出したその剣——雷切を受け取った瞬間、世界が揺らいだ。

「時間だ」

「俺たちは、お前と共にある」

「劫の眼に連なる者よ」

「「俺（私）たちが、お前の力になる」」

あれから、七年。

雷切を扱えるように剣士の身体を作るのに、三年。

なのはにばれない様に士郎さんの下で剣の基礎を身に付けるのに、二年。

劫の眼や術を知るため世界を回るのに、二年。

力は、十分。

蘇った不屈のエースの噂は知っている。

管理局から離れていたこの七年の間もなのはたちの噂は聞かないことは無かった。

だから、なのは。

「君が多くの人を守るなら、僕が君を守るよ」

僕はこの道を歩き出す――

始まらないプロローグ（後書き）

うん。あっちの続きが思いつかなくてなんかネタは無いかと部屋を見回したら11eyesのマンガが目に入ったんだ。

そしたらなんかこんなネタを思いついたんだ。

なんでユーノなのかとか聞かないで。意味は無いから。

プロローグだけど続かないよ？

……ありえないとは思うけど、まさかこの小説の続きが読みたいとか言う奇抜な人がいらっしやったら、感想に『ネタ小説上等わふー！』って書いてください。たくさん来たら続くかもです。

この小説が続くとしたら基本的にシリアス路線突っ走りますがががが。

あ、批判とかはやめてください。あくまでも思いついただけの話なんで作者のプラスチックの心がブレイクします。

追記。 10/07/19

連載はしないことにします。

この設定で書いてやろう。なんて稀有な方がいらっしやいましたら一言連絡の上、どうぞご自由に書いてください。

S
T
S
でまともに日の目を見られなかったユーノ君に栄光を！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6781/>

ユーノさんが大変な力を手に入れました

2010年10月13日21時34分発行